

CAR No.36

Beyond

スーパーFJ
アルビレックス・レーシング・チーム
PRESS RELEASE
2011/7/23

ALBIREX-RT

スーパーFJ 富士チャンピオンレースシリーズ 第3戦
スピードUPして行く田中選手

前回、富士の開幕戦では練習不足がたり、予選、決勝と満足いく内容とはいえませんでした。開幕戦が終わってから短期間で第2戦が開催されたため、もっぱらドライビングのイメージ構築、トレーニングに始終今回の目標は、①1分52秒台に突入する事、②決勝で表彰台に乗ることの二つとしました。

7月22日 フリー走行 3本ともドライ

1本目: 当日朝の夢の中で、100R後のヘアピンコーナーを高速で抜けるイメージを得て実践しました。これまでは中速コーナーと言う意識で走らせていましたが、コースの形状の割にコース幅が広くワイドなラインをトレースすることでボトムスピードを落とさず走れるということがわかりました。
2本目: 気温の上昇に伴い水温が厳しく、エンジンパワーダウンをしていました。またタイヤも表面だけズルズル削れていき、タイムは出しにくい状況でした。
3本目: このフリー走行から新しいタイプのブレーキパッドを投入しました。ブレーキリリースの調整が行いやすく、止めるブレーキングから曲げる為のリリース、ステアリングとの連動も今回投入したブレーキパッドの方がフィーリングがよく明日の決勝に期待が持てました。

7月23日 予選

前回、前々回と予選で遅い車に捕まってしまう、本来出せるタイムを出せずにいました。今回は上位陣と同じタイミングでピットアウトし、予選をこなすことができましたが、作戦負けした感が否めません。アタックをかけるタイミングはまだまだ練習が必要だと感じました。タイム差としては割合僅差という認識をしていますが、S-FJ 10位/20台で予選を終えました。
決勝
これまでスタートは得意な方でしたが、今回はスタートのタイミングを合わせきれず出遅れてしまいました。今回から投入したブレーキパッドの恩恵は絶大でどのコーナーでも並んでいけるようになりました。暑さの為か、車両同士の接触や離陸が頻発しました。中団グループはあまりクリーンなレースではなかったと思います。車を壊すリスクを負いきれなかったため、今回も我慢のレースとなりました。

総評

今回のレースを自己評価すると予選55点、決勝65点というところではあります。他者比較ではありませんが決勝中、余力を残して良いラップタイムだっただけにスタートのミスが悔やまれます。しかしながら新しいブレーキパッドの恩恵は絶大でブレーキバランスの調整がほとんどできていない状態であった事を考えると今後の結果に期待できるのではと感じています。他のライバルたちがそうなのですが、単純にドライビングテクニックだけでなくレースで少しでも良い結果を出すための様々な引き出し、駆け引きの技を持っている事を痛感しました。小生も機会を見つけて練習に励みたいと考えています。

中村監督コメント

速さは十分出てきました。あとは「勝」に対する意識の問題です。次回は「勝」を意識したレースをして欲しいです。



Nankai Plan Co.,Ltd.



鈴木会計
埼玉・川口
<http://www.tkcncf.com/sds>

P PLUS

Moty's
HYPER LUBRICANT TECHNOLOGY

